

No. 1462

道路をきれいに

8月は全国で道路を守る運動が行なわれています。建設省東京国道工事事務所は上野警察署と合同で歩道の正しい使い方の指導を実施しました。看板、日除けをつけるときは出巾1メートル高さ2メートル50センチ以上に設置し許可を受ける必要があります。また、歩道をお店の代りに使用しているのも目立ちます。

ここ上野駅周辺ではオートバイの店が歩道の自転車通路を商品置場にしています。オートバイをどかせば道路はこんなにすっきり。道路はみんなの通る道、広々と正しく使いたいものです。

木曾路

幾重にも重なった深い山々。ここは長野県木曾郡、旧中山道のあったところです。夏の終わりに私は木曾路を訪ねてみました。馬籠宿は木曾路の南端、現在はバスの終点で大賑わい。余り山奥といった感じはありません。しかし、急な坂道からかつての旅の厳しさが想像されます。馬籠は文豪・島崎藤村の生まれた所としても有名。かつて島崎家のあった本陣跡は、記念館となっています。

8月22日は、昭和18年、72才で死んだ藤村の命日。館内には数々の名作の原稿などが展示されています。また近くの永昌寺には、藤村と、亡き家族の簡素な墓もあります。大黒屋は藤村の幼な友だち、おゆふさんの生家。——まだあげ初めし前髪の、りんごのもとに見えしとき、前にさしたる花櫛の、花ある君と思ひけり——標高810メートル、馬籠峠をくぐれば、妻籠宿。「木曾路はすべて山の中である」と名作『夜明け前』は始まりますが、本当に大きな木の下を歩きます。10キロも歩いてやっと妻籠宿へたどりつきました。今夜は、どの宿へ泊ろうかな？、一足先に、もう秋の気配が漂う木曾路です。